

警備員のいない片側交互通行を実現する

AI交通制御システム

特許取得済 / 特許申請中

NETIS登録番号：KT-220227-A

片側交互通行の 省人化

工事区間両端の警備員を省人化できるため、限られた人数でも片側交互通行の誘導が可能です。国土交通省発注の現場での実績もあり、「人の代わり」に誘導することのできるシステムです。

受傷事故件数を ゼロ

もっとも危険な、規制区間両端の人をAIに置き換えることができ、深刻な受傷事故発生リスクを減らします。また、AIによる質の高い誘導により、現場全体の安全性も向上します。

さらなる 付加価値

撮影された映像データや、測定された交通量データ（オプション）の活用により、今までとは一味違った提案も可能です。単なる人からの置き換えに留まらず、現場に対して、より高い価値をもたらします。



「ただいま」を、当たり前と言える毎日を。

人が交通誘導を行う時代は終わりましたー。
なぜその人は、そんなに危険な仕事をしなかったのだろうか。
なぜ家族は、悲しまなかったのだろうか。

私たちは、建設・警備に携わるすべての人が
当たり前のように「ただいま」と言って帰れる日を、毎日コツコツつくります。

： KB-eye for 交通制御とは

KB-eye for 交通制御は、片側交互通行の現場にシステムを設置するだけで、自動的に交通誘導警備を開始します。車両の通過数状況や周辺渋滞情報を自動的に取得することで、最適な信号切替タイミングを判断し、通行車両を滞留させることなく誘導します。

既存の工事用信号による機械的な誘導ではなく、より人に近い判断で誘導を行うKB-eye for 交通制御。これまでは多くの警備員がいないと誘導ができなかった片側交互通行の現場でも、配置人数を削減することができる次世代の交通誘導システムです。



： 機能

AI による統括的な交通誘導



全体の安全性・円滑性を考え、AIが自動で誘導をコントロールし、オペレーションミスのない交通誘導が実現します。

交通状況に応じた誘導の最適化



交通状況に応じて誘導時間を自動調整したり、通行車両がない状態の際は、次に来た車両側の車線を優先的に誘導することができます。

規制区間内の安全確認



規制区間内の安全確認をAIが実施します。区間内に停車車両がないか・逆走車両がないか等を常に自動監視します。

万が一のオペレーター操作



現場の安全状況・誘導状況は、システムから音声でオペレーターに常時発報します。万が一の際は、リモコンによってLED表示を操作することができます。

各種データの記録



万が一の際の映像データや稼働中の車両通行状況等は、安全のために記録され、必要な時に取得・活用することができます。

： 製品仕様

製品名	KB-eye for 交通制御 [KKT-02]
外形寸法	KKT-02 : W1,750×H1,040×D1,000mm
通知形式	トランシーバーによる音声通知 / LED 看板による誘導表示
設置環境気温	-10℃～40℃（結露・凍結なきこと）
重量	KKT-02 : 約 100 kg (総計)
電源供給	本体：リチウムイオンバッテリー / LED看板：発電機
通信方式	インターネット接続
備考	・2024 年 10 月時点の仕様となります。 ・基本的な防水性能は備わっていますが、荒天の際には使用をお控えください。 ・今後製品開発により、仕様が変更されることがございます。ご了承ください。



KKT-02



KB-eye（ケイビーアイ）株式会社

<https://kb-eye.jp/>

